

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 2008年6月27日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4670103011
法人名	医療法人 光徳会
事業所名	グループホーム東谷山
所在地	鹿児島市東谷山2丁目49-10 (電話) 099-260-8200
評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成 20年 6月 27日

【情報提供票より】平成20年6月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 11月 29日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 17 人
職員数	28 人 常勤 3 人, 非常勤 25 人, 常勤換算 15 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨コンクリート 3階建ての 2階 ~ 3階部分
------	-----------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費相当額 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	250 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	15名	男性	2名	女性	13名
要介護1	7名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 84.4歳	最低	69歳	最高	96歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	鹿児島徳州会病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム東谷山」は開設6年目を迎えている。ホームは旧ビルを改装したもので、グループホームの機能が十分に果たせるように、利用者がふれあい交流のできるリビングや食堂、住み心地よい居室に改装されている。玄関周りやリビングには季節を感じさせる花や絵が飾られ、それぞれの居室には、入居者自身が使い慣れたタンスやベッドなどが備えられ、家庭的な雰囲気を大事にしている。施設を一步出ると交通量の多い笹貫バイパスに面することから、施設職員は外出時の入居者の安全確保に細心の気配りを行っている。行事や買い物により外出の機会をできるだけ確保すると同時に個々の利用者の役割を見つけ出し、利用者がいきいきと過ごせるように支援を行っている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 昨年の外部評価結果はユニット会議の中で読み合わせた。昨年の改善点については、管理者と計画担当者間で、改善計画をたて取り組んだ。理念は2ユニット統合し、地域密着型の理念を取り入れ明文化した。介護計画にMDSを取り入れ職員の意見が反映されるようにした。事故報告やヒヤリハットは記録が整備され、ユニット会議の中で周知徹底が図られている。食事摂取を栄養面から指導を受けるために管理栄養士の導入を試みたが、実現には至っていないので今年度もひきつづき取組んでいきたい。鍵をかけないケアは、立地条件から利用者の安全を優先し家族の理解をいただけるよう取組んでいる。地域とのつながりを深めるために近隣住民とのお茶会の計画が進んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価項目をユニット会議で読み上げ、職員への周知を図り、職員の意見を聞きながら、主に管理者と計画担当者間で記入しまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 定期的な「地域交流会議」が、運営推進会議に代わるものとして開かれている。町内会長、民生委員、高齢者クラブ会長等が交互に出席していただき、ホームの紹介と地域交流について話し合いが持たれているが、今後は、利用者、家族、地域包括支援センター職員、行政関係者など幅広く出席を求め、ホーム運営についての意見交換がなされることを望まれる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 入居時の説明書類には相談窓口と行政等の苦情受付機関が明示されている。意見箱を設置して家族などの意見を把握する機会を設けているが、相談・意見は個々に職員へ出されている。不満については、電話で言ってくる事が多いので、その都度、管理者の段階で対応している。ほとんどの家族は月に1回以上のグループホーム訪問があり、そのつど健康状態や生活の様子を知らせている。金銭出納についても個人別の出納帳を作成し、面会時に確認印をもらっている。また、職員の異動状況については、面会時に新任の職員を紹介している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、公園清掃に参加している。地域の高齢者の方々にホーム見学に来て頂こうと町内に回覧をした。その成果はなかったものの、近隣からの介護相談、入居に関する相談があるようになってきている。近日中には民生委員との茶話会も計画されており、また高校生、中学生の職場体験の受け入れなど、積極的に地域との交流を図っている。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスを提供することを、具体的でわかりやすい表現で作り直した。これまでは2ユニットがそれぞれの理念を掲げていたが、今回は一つの理念に統合した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	明文化した理念を印刷し、職員それぞれに配布し、毎朝の引継ぎ時に唱和している。唱和をすることで、気持ちが引き締められ、職員が心一つにケアができると感じている。グループホームだよりなどで家族や町内へ分かってもらえるように明記している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内会にホーム案内を回覧したり、公園清掃に参加したりしている。また近日中に、民生委員の方々と茶話会も企画されており、理解と交流が少しずつすすんでいる。地域のボランティアや中学生・高校生の職場体験を受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価結果はユニット会議で読み合わせて、職員に周知を図った。改善点についても改善計画を作った。今回の自己評価もユニット会議で読み合わせて、職員の意見を聞きながら、管理者と計画担当者との間で作成した。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を地域交流推進会議として開いている。町内会長、民生委員、老人会長などの参加がありグループホームについて理解を深めてもらう体制ができてきているものの、本人やその家族、行政機関など幅広い立場の参加とは言い難く、また、外部評価と会議を結びつけていくという点でも十分とは言い難い。	○	運営推進会議は一定のメンバーに偏ることなく、幅広い立場の方々からの率直な意見をもらい、それらをサービス向上に生かしていくことが重要です。外部評価の取り組みや評価後の改善への取り組みを運営推進会議にモニターしてもらい、運営推進会議と外部評価との結びつけや質の確保を図って頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護サービスについての問い合わせを電話で行ったり、生活保護受給者、成年後見制度の取り扱いなどの諸手続きを行う時に機会をとらえて連携をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ほとんどの家族は月に1回以上のグループホーム訪問があり、そのつど健康状態や生活の様子を知らせている。金銭出納についても個人別の出納帳を作成し、面会時に確認印をもらっている。また、職員の異動状況については、直接担当者が交代する場合は、その都度家族に紹介している。それ以外は、面会時に新任の職員を紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時の説明書類には相談窓口と行政等の苦情受付機関が明示されている。また、玄関に意見箱を設置して家族などの意見を把握する機会を設けている。これまで直接の相談・意見はないものの、電話での苦情や運営に関する意見があり、管理者サイドで対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は利用者にとってダメージになることを理解し、職員の半数以内にとどめられるように努力している。また、新任の職員には業務の流れや重要事項説明書、利用者の特徴などについて伝え、なるべく早く馴染んでもらうように努力している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員育成の必要性を理解し、各種研修を職員に案内し受講を勧め、出勤扱いで受講させている。受講は一部の職員に偏らないように交互に受講している。一方、施設内ではユニット会議の後で課題を決め、勉強会を実施し、日々の介護に生かしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	谷山地域のグループホーム協議会に入会し、月に一回の研修会に参加し、外部施設との交流を図り、グループホームのケア向上につなげて行けるように取組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できるだけ入居前に本人と家族に見学に来てもらいグループホームの雰囲気を覚えてもらっている。入居時、本人や家族の希望などしっかり聞き取り、家族の理解と協力をもらい、頻りに家族の面会をお願いし、早くホームの雰囲気に馴染むように働きかけている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と本人が日頃から声をかけ合いコミュニケーションをとり、料理など人生の先輩として教えてもらったり、うれしい場面など感情に触れ合うところでは、一緒に喜ぶなど家族の思いで、共に支えあう関係を築くように努力をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時に家族や本人などから聞いたり書いたりしてもらった情報を個人記録にまとめている。一方、日々本人の言動や面会時の家族との会話の中から介護上必要なことを記録し、申し送りなどで他の職員と共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画にあたり、ケアマネージャーが中心になって、本人や家族、ユニット会議で出される職員の意見を集約し、MDSを活用し、担当者と作成している。しかし、計画に主治医の意見が十分に反映されているとはいえない面がある。	○	本人がより良く暮らすためには、本人、そして本人を良く知る関係者の気付きや意見、アイデアを出しあい、話し合った結果を基に介護計画を作る必要がある。そのためには計画の目標や具体的なサービスについて本人や関係者(特に主治医)に理解してもらい、日頃の気付きを反映するための工夫が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当者が毎月のモニタリングを実施し、3か月ごとにケアマネージャーを中心にして評価を行い評価表に記録している。必要時には担当者会議を開き計画を見直しているが、あまり変化のない利用者も年1回は計画を検討し現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への受診の送迎や同行支援などを本人の金銭の負担がない形で行っており、家族が本来実施するさまざまな手続きや物品購入なども代行実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族との話し合いによって決め、利用者ごとに希望するかかりつけ医が決まっている。また、受診の際に付き添うことにより医師や看護師との関係を築き、家族には電話でそのつど報告を行っている。本人の状態によっては本人や家族の希望に応じて他診療科へも同行受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族と重度化した場合や終末期について話し合いをもち、意向を確認している。基本的に重度化した時には病院を紹介することとなっている。既にホームによる看取りを行った事例もあり、状態が徐々に低下し、ホームで対応できなくなりまで、家族と職員が話し合いを重ねながら対応している。職員間でも常に情報を共有し、万が一の際には家族へ同意書にサインをもらっている。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの対応については、月一度のユニット会議で気づいたことを出し合い、お互いに意識を高めている。また、記録物は事務室に保管したり、机にしまうなど職員以外の人の目に触れないようにし、秘密保持の徹底に気を付けている。転院時の情報提供などについては、個人情報保護法に基づいて同意をいただいている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの1日の流れはあるものの、体調や希望に合わせた暮らしを応援している。起床の遅い方、食事の遅い方のペースも大事に見守られており、本人の過ごしたい希望があれば、柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃から食べたい物を話題にし、それぞれの好みを献立に取り入れたり、たけのこやつわの皮むき、テーブル拭きなど、利用者が一緒にできる食事の準備を、職員と一緒にしている。食事風景は会話をしながらの楽しい食事であり、一人ひとりの力量に合わせた食事支援が行なわれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の意向を考慮し、職員の都合に合わせる事がないようにしている。また、基本的に利用者が一人で入浴するが、状態によって介助についたり、浴室付近で見守りを行っている。利用者が入浴を拒む場合は、時間をかけて促して見るものの、臨機応変に足浴や清拭等を行い入浴を楽しんでもらえるように取組んでいる。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴や趣味、興味を引き出し、過去の経験の記憶や力を活かして、掃除や洗濯物たたみ、食事準備を手伝ってもらい、行事やレクリエーションでは散歩外出、昭和の映画や音楽を楽しんで、一人ひとりに応じた楽しみの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の大半が外出を好むため、気分転換も兼ねて外出や散歩を行っている。このことが、利用者同士の雰囲気を改善するのにも役立っている。外出は、希望に応じてドライブ、外食、公園、足浴などに出かけている。ほぼ毎日外出する人もいるが、あまり外出しない人も月に1～2回は外出するよう支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しているが、交通量の多い道路に面して立てられているホームであることから、外出傾向のある利用者が万一事故に遭遇することを考え、鍵をかけている。鍵をかけないケアについては、その日その日の利用者の落ち着き状態などをみて対応している。この点については、家族にも説明し、理解と協力を得ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力をもらい、年2回、昼夜の避難訓練を行っている。災害時の援助として、近距離にある関連施設の援助を期待しており、地域からの援助体制の協力については、働きかけは行われていない。災害に備えた備品については飲料水や食料、トイレなどの準備が十分とは言えない。	○	職員だけの避難誘導の限界部分を具体的に確認して、事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加と協力をいただけるように、町内会へお願いしたり、運営推進会議へ出席頂いて、警察署、消防署の参加のもと協力体制について話し合うなど、具体的な支援体制の整備に取組むことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量や飲水量を記録し、体重も毎月測定し記録しており、利用者の身体の状態の変化に早く気づくようにしている。利用者本人の好みや食習慣を考慮して、献立を作成し、食べる量や味付けや栄養バランスについては、職員が本などから勉強して対応している。管理栄養士のアドバイスを得たいと、管理者は交渉しているが、まだ受けることができない。引き続き今後も管理栄養士のアドバイスが受けられるように交渉していくとしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は明るく、テーブルやソファなどを置き、利用者が安心して気楽に過ごせる空間が提供されている。また、部屋の一角には、季節の花が生けられ、壁には利用者がレクリエーションで作成した季節感のある作品が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人がこれまで使い慣れたベッドや家具、小物、写真などが飾られその人らしい居室を作り出しており、居心地良く過ごせる工夫がある。		